



(題字は初代学長 山田守英氏)

第 178 号

令和 2 年 3 月 31 日

編集 旭川医科大学
発行 教務部学生支援課



「キレンジャク」

(写真撮影：学生支援課)

教授就任のご挨拶

…… 先進医工学研究センター 武輪 能明 …… 2

学部学生海外留学助成制度を利用して

…… 医学科第 2 学年 本田 廉 …… 4

第 8 回医学科白衣式 …… 5

令和元年度

外国人留学生冬季交流事業 …… 6

授業評価(2019年度前期) …… 7

看護技術スキルアップトレーニング …… 33

医学教育分野別評価の受審結果について …… 34

令和 2 年度授業料の免除等の申請について …… 35

令和 2 年度

日本学生支援機構奨学生の募集について …… 36

ソーシャルメディアの適切な利用について …… 36

国民年金の学生納付特例制度について …… 37

令和 2 年度保健管理センター健康相談日 …… 38

教員の異動 …… 39

訃報 …… 39



教授就任のご挨拶

旭川医科大学 先進医工学研究センター

教授 **武輪 能明**

このたび、令和2年1月1日付けで、本学、先進医工学研究センター センター長・教授の職を拝命致しました。先進医工学研究センターは、医工学の知識を基に最先端の医療機器の開発や革新的な治療技術の発案を行う拠点となるべく新設されました。私は、初代センター長として新時代にふさわしい先進医療の発展に貢献するべく、身の引き締まる思いです。

医療は、昔からの経験を基にした診断力と簡単な道具を使った治療により成り立っていた時代から、科学技術の進歩により生まれた診断機器と複雑な治療機器を駆使して治療にあたる様態に変化しています。これら医療機器の開発には高度な医学知識と工学知識を用いる必要がありますが、医科大学単独の力では到底成し得ない程高度化しています。そのため、医工連携・産学連携体制を積極的に推し進めることが重要で、関連の大学、研究機関、医療機器企業、高度な技術を有する企業の方々に参入をお願いし、開発を進めて行きたいと考えています。

医療機器の開発をする部署なら学生には関係ないとお考えになるかも知れませんが、いやいやどうして、医療機器のユーザーである医師になる医学生には、新しい医療機器にどんなものがあり、それらをどう使うか理解していない状態では常に患者に最善の医療を選択することができなくなります。したがって、当部署が担当する講義等では、最新の医療機器や治療法について詳しく紹介しますのでしっかりと情報収集して将来の臨床に生かして下さい。

私は、平成2年（1990年）に奈良県立医科大学医学部を卒業し、北村惣一郎先生（現、国立循環器病研究センター 名誉総長）が教授を務めていた同大学第三外科（心臓血管呼吸器外科）に入局後、心臓血管外科の臨床修練に従事しつつ循環器系医療機器や人工臓器の臨床研究に携わりました。当時国内で心臓移植再開の気運が高まりその治療に不可欠でまだ不十分であった人工心臓・人工肺の研究に特に興味を抱きました。

平成7年（1995年）からは国立循環器病センターで、人工心臓・人工肺の開発および適用時の病態生理の研究に従事しました。特に、就任時に扱った研究テーマ「心肺補助中の肺循環バイパス率による全身循環が受ける影響の変化」については、現在、体外式膜型肺補助（ECMO）や経皮的心肺補助（PCPS）として一般的に使用される心肺補助装置が有効な治療法として認知される一助になりました。

平成9年（1997年）に第三外科に帰局後、心臓血管外科医として重症心不全患者と接する中で、さらに補助循環治療の向上が重要であると痛感し、再び国立循環器病センター 人

工臓器部で補助循環治療と心臓再生治療の併用療法の開発に携わりました。

平成 17 年（2005 年）から米国ボストン、ハーバード大学医学部マサチューセッツ総合病院の研究者として、さらに平成 19 年（2007 年）にはニューヨーク、マウントサイナイ病院の助教として留学し、心臓再生医療としてのカルシウム処理関連蛋白の遺伝子導入および心筋細胞移植の研究を行いました。

帰国後再び国立循環器病センター 研究所人工臓器部で先端治療機器研究室長として、補助循環中の心臓再生治療の併用療法に関する大型動物を用いた前臨床試験や、人工心臓・人工肺を始めとする医療機器の開発・製品化に従事しました。同時に、自己組織からなる生体心臓弁の開発に携わり、同弁が生体への移植後、生体適合性と耐久性を併せ持つ組織構造に変化すること、さらに成長の可能性もあることを明らかにし、特に小児の代用心臓弁としての有用性を示しました。本学では、この自己組織からなる生体心臓弁を臨床応用にまで到達するべく精進して参りたいと考えております。

これまでご紹介した様に当部署での研究は、心臓血管外科や循環器領域における大動物を用いた前臨床試験をメインとしており、実臨床で施行される心臓血管外科手術やカテーテル治療手技を大動物相手に行う機会に恵まれていますので、学生の皆さんの中でそれらの実体験に興味がある人がいれば遠慮なく訪ねて来て下さい。また、他大学の学生も含め、基礎医学講座の実習や大学院の研究テーマとしてわれわれの研究に参加していただく体制を整えたいと考えています。

以上の様に、新しい部署として本学に新しい風を吹き込みたいと考えておりますので、皆様のご協力と積極的な参加をお願い致します。

学部学生海外留学助成制度を利用して

医学科2年 本 田 廉



この度、学部学生海外留学助成制度を利用して、ベトナムのホイアンに留学させていただきました。留学の目的としては、学生の中に少しでも海外生活の経験を積むことで、言語や宗教などの異なる文化でのコミュニケーションについて知ることや、普段は学ぶことが難しいビジネスについての知見を深めるという目標のもと留学を決意しました。

この留学プログラムは、日本の大学生がベトナムに2週間滞在して、実際に運営している店舗で新たなビジネスを企画するという内容です。海外で見知らぬ人と長期間にわたり生活すること自体が初めての経験である上に、外国人を相手にしたビジネスを企画、実行し、それが採用か不採用まで判断されるという、実際にビジネスの場で行われているやり取りを直に体験をすることができました。このプログラムを通じて、ビジネスにおいてよい企画を作るためには、失敗と議論を重ねていく必要があり、表面上の議論をしても意味がないということに気づかされました。また、議論におけるコンセンサスの取り方にも気を付けなくては、その議論さえも意味がないものになると理解しました。特に、私たちのチームは人間関係やビジネスの両方で最も失敗しており、そこから得られた気づきこそが最終的によい企画へとつながったのではないかと思いました。将来、医師となり限られた診療時間の中、患者さんとより良い関係を構築して、最大限に意見を尊重するために大切な経験であると考えました。今回の留学を通じて、貴重な経験をすることができました。ご支援していただいた皆様、申請などにあたりサポートしていただいた方々にお礼申し上げます。このような支援事業で学んだことを糧に、今後の学生生活に活かしていけるように日々努力してまいります。

「第8回医学科白衣式」

令和2年1月9日（木）旭川医科大学看護学科棟大講義室において、医学科白衣式を挙
行し、今年は121名の学生に白衣を授与
しました。式典には本学教職員の他、医療面接
実習など様々な場面でお世話になったSP
（模擬患者）の方々にもご出席いただきまし
た。

白衣式は臨床実習を目前に控える医学科第
4学年を対象に、これから医療者の一員とし
て、社会に貢献する立場になることを再認識
させる等、「医師としてのプロフェッショナ
リズムを涵養する」ことを目的として行っ
ています。

式典では、吉田学長から学生へ祝福と激
励、さらに「医師としてのプロフェッショナ
リズム」についてお話がありました。

続く、白衣の授与にあたっては、吉田学長
をはじめ7名の先生方が白衣プレゼンターと
なり、学生1人1人に名前入りの白衣を着せ

ていただきました。白衣授与の際、プレゼン
ターから祝福や激励の声が掛けられ、学生た
ちがそれに笑顔でこたえる様子が見られまし
た。

その後、吉田学長より代表の学生へ
Student Doctor 認定証が授与されました。

Student Doctor 認定証とは医師免許を持
たない学生が、臨床実習を行うに足る知識・
技能・態度を備えていることを患者さんや実
習先に証明するものです。学生たちは、これ
から Student Doctor として更なる知識や技
能の習得に励みます。

式の最後には、学生から〔44期生誓いの
言葉〕の宣誓が行われました。誓いの言葉に
は学生が考えた医療人としての目標があげら
れました。

学生たちは誓いの言葉で目標とした医療人
を目指し、新たな一歩を踏み出します。

〔44期生誓いの言葉〕

命の尊さを忘れずに、誠心誠意医療に向き合います。

患者さんに寄り添い、全人的医療に努めます。

生涯にわたり真理の探究の志を持ち、高い知識と技術の研鑽に努めます。

高い倫理観と向上心をもって、地域医療に貢献できる医師を目指します。

チームで連携し、誰からも信頼される医療人となることをここに誓います。



令和元年度 外国人留学生冬季交流事業

令和元年度の外国人留学生交流事業が、2月21日（金）・22日（土）の2日間の日程で、本学に留学している学生と関係教職員の4カ国、計7名が参加して実施されました。

この事業は旭川市内近郊だけではなく、北海道内の名所を外国人留学生に観てもらい、北海道の良さを再認識してもらおうとともに、様々な国から来日されている留学生同士の交流及び外国人留学生と職員との交流を図ることを目的としたものです。

1日目は、札幌市内で体験・見学をしました。寿司握り体験では、自分で握ったお寿司をてんぷらと一緒に美味しくいただき、日本ならではの食事を楽しむことができました。

続いて、着物・茶道体験では、自分で着物を選んで着付けをしてもらい、着物姿で写真を撮って旅の記念に残すことができました。茶室でお茶の作法や点て方を教えていただき、一つひとつの作法に真剣に取り組んでいる様子が印象的でした。

北海道博物館では、北海道の歴史に関するたくさんの展示物があり、北海道の歴史や、アイヌ民族の文化について知ることができました。館内には、迫力のある標本やリアルな展示物がたくさんあり、熱心に見学をしていました。

その後、宿泊先のしこつ湖鶴雅リゾートスパ水の調に移動し、夕食や温泉を楽しみました。普段は話をする機会の少ない留学生と教職員とも、とても和やかな雰囲気の中で交流を深めることができました。

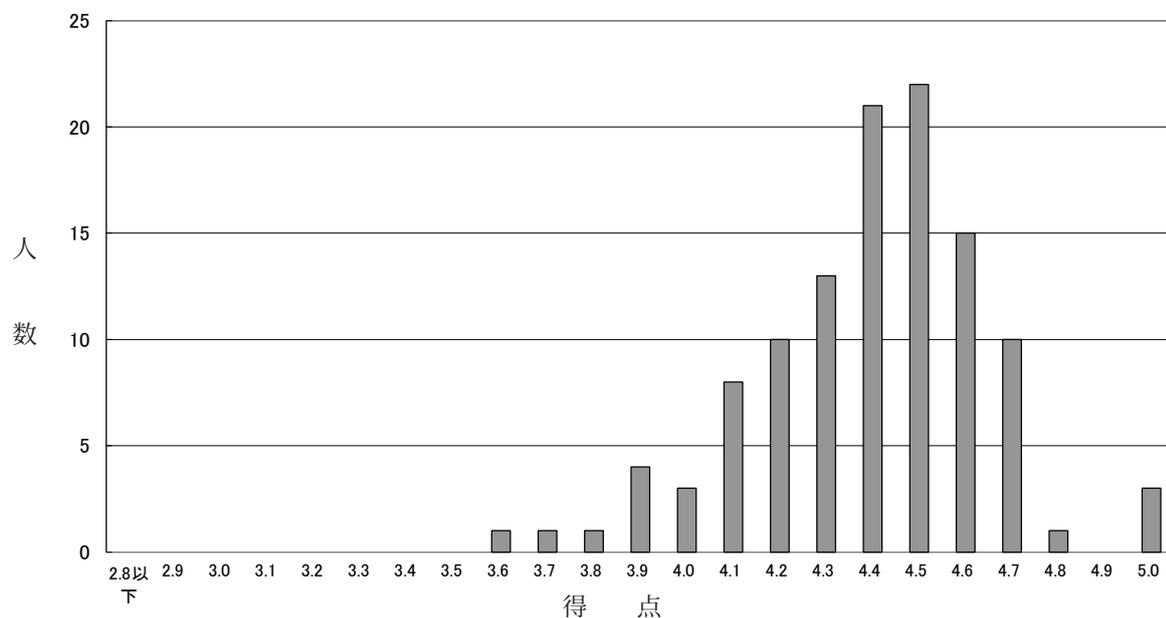
2日目は支笏湖でクリアカヤック体験をしました。支笏湖は何度も水質日本一に選ばれるほど透明度が高く、底板が透明なクリアカヤックに乗ると、水中がとてもきれいに見えました。雪や風もなく、穏やかにカヤックを楽しむことができました。その後、露天風呂が有名な丸駒温泉に行き、体を温め、昼食を取った後、無事夕方に本学に到着し、外国人留学生交流事業が終了しました。



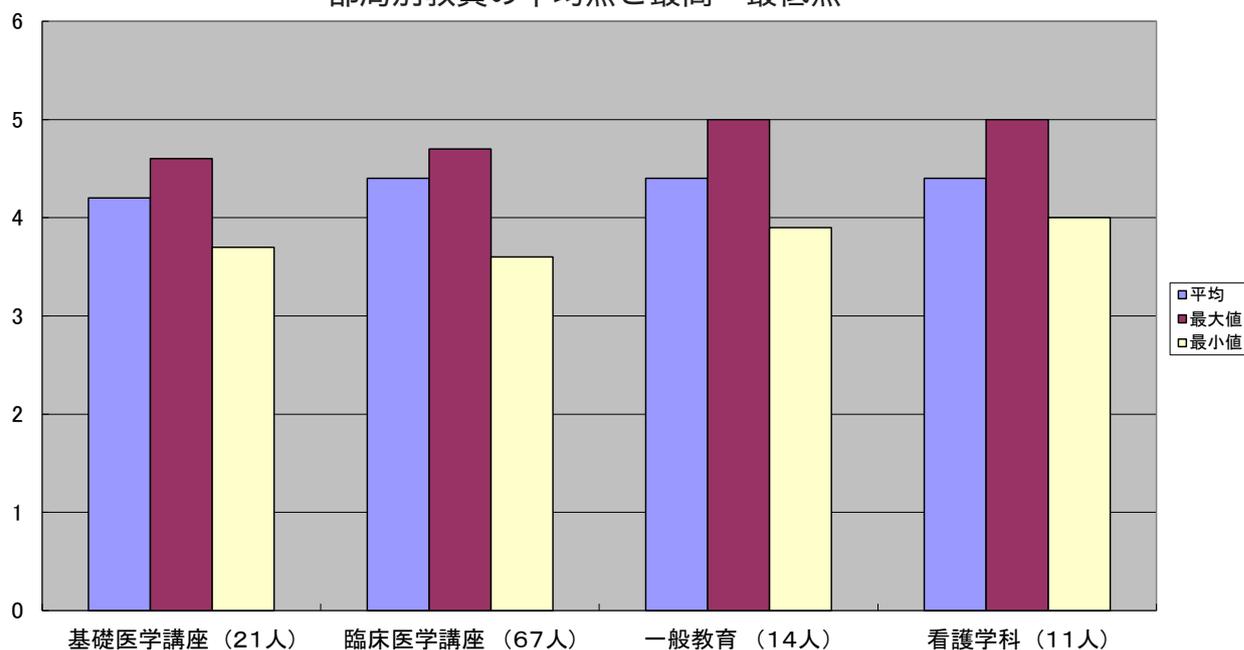
2019 年度前期「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

人数	得点																							
	2.8以下	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7	4.8	4.9	5.0	
									1	1	1	4	3	8	10	13	21	22	15	10	1			3

(実施人数113・平均4.4)



部局別教員の平均点と最高・最低点



講義に対する学生評価

問 この授業は全体として満足できるものでしたか。

- | | |
|-------------|-----------|
| ⑤ 強くそう思う | (非常によい) |
| ④ やや思う | (良い) |
| ③ どちらとも言えない | (普通) |
| ② あまりそう思わない | (あまり良くない) |
| ① 全くそう思わない | (良くない) |

科目全体の講義企画に対する学生評価

あなたの履修態度について	問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。
	問2 授業に毎回出席しましたか。
	問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。
	問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。
目的の達成	問5 科目全体の到達目標を最終的に達成することができましたか。
科目内容	問6 あなたにとって科目全体の難易度は適切でしたか。
	問7 科目を履修することで、今後の学習意欲は増しましたか。
総合評価	問8 この科目は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強く思う (非常に良い)
- ④ やや思う (良い)
- ③ どちらとも言えない (普通)
- ② あまりそう思わない (あまり良くない)
- ① 全くそう思わない (良くない)

科目名：自然科学入門（生物系）（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：79 配付数：79 回収数：61 回収率：77.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.8	4.2	3.0	3.5	3.9	4.1	4.3

＊評価に対するコメント

自然科学入門（生物系）担当教員

本講義は高校生物基礎の教科書を題材に、生物学の基礎的な知識や思考力を身につけることが目的である。講義内容は平易にし、毎回、前回の講義内容の復習を挟み、できる限り1つ1つの知識が線で結びつくよう配慮した。学生から、「生物嫌いが払拭できた」、「(知識が) つながる感覚がありよかった」、「初学者だけど、フォローが良く、心が折れなかった」等のコメントを頂戴した。来年度も更に講義の質を上げるよう努力したい。

科目名：自然科学入門（物理系）（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：26 配付数：26 回収数：25 回収率：96.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.7	4.3	3.1	3.3	3.5	3.5	3.8

＊評価に対するコメント

自然科学入門（物理系）担当教員

総合評価は昨年とほぼ変わらず 3.8 であった。個別の設問では、問5の難易度の適切さについての設問が、例年よりも低めだった昨年度と比較して0.7上昇しており、この点において改善が見られたことは良い結果だったと言える。

ただ、一方で問1と問4の学生自身の予習と復習に関する項目が若干下降しているのが気がかりである。予習と復習の習慣をしっかりとつけて、今後の学習に生かしてもらいたい。

科目名：自然科学入門（化学系）（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：2 配付数：2 回収数：2 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	5.0	4.0	3.5	4.0	3.5	5.0	5.0

＊評価に対するコメント

自然科学入門（化学系）担当教員

例年、この科目を選択する学生は数名であるため、講義中の学生と対話しながら、学生の理解度を把握しながら講義を行っている。今年度は受講した学生は2名であった。講義では高校化学を薄く広く復習するのではなく、今後の基礎化学の講義内容の理解につながる基礎的な考え方の理解に重点を置いて講義を行った。結果的に受講した学生は高校で習った化学や物理で疑問を抱いていた部分や発展的な内容を理解することができた。

科目名：医療概論Ⅰ（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：107 配付数：107 回収数：83 回収率：77.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.4	4.7	4.0	2.6	3.7	4.0	4.0	4.3

＊評価に対するコメント

医療概論Ⅰ担当教員

本講義は、生や死、人生の意味、自律、信念対立など医療に通底している哲学的テーマについて検討することで、科学的知見や経験則を覚えることが主体になってしまっている現状において、自分で「考える」ことを経験できる講義である。予習は想定していないため、その部分の評価は低い。能動的に授業に参加できた学生が多かった。今後、医学を学んでいく際の基礎体力がついたと考える。

科目名：情報統計学（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：107 配付数：107 回収数：101 回収率：94.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.4	4.5	3.6	2.5	3.4	3.3	3.4	3.8

＊評価に対するコメント

情報統計学担当教員

今年度も例年並みの評価をいただきました。「統計学の基礎」では、授業前の予習の必要性を強調しています。問2,3が高く、問1,4は低い傾向は続いています。長い間に培われた慣習が変わったことを実感しています。授業後、試験前の質問も数多くありましたが、昨年度と比較すると、多様性が少し乏しい印象もありました。フォローアップでいただいた意見を参考にし、質を高めていきます。学年が上がっても切磋琢磨されて、昨年度に負けない雰囲気構築されることを願っています。今後、統計学を復習される機会があれば、質問には対応しますのでお尋ねください。「情報リテラシー」での授業成果は、大学教育用ホームページにて、各年度の入学者ごとに公開されています。

科目名：地域医療学（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：107 配付数：107 回収数：100 回収率：93.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.3	4.8	3.8	2.4	3.7	3.9	3.7	3.9

＊評価に対するコメント

地域医療学担当教員

授業は地域医療の現状理解につながっていると考えられる。
地域医療を維持することの意味について、医師のプロフェッショナルリズムと絡めて今後も学生に考えさせる内容にしていきたい。

科目名：心理学（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：107 配付数：107 回収数：104 回収率：97.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.1	4.4	3.8	2.6	3.5	3.9	4.0	4.1

＊評価に対するコメント

心理学 担当教員

予習・復習についての評価は2.1、2.6であり、前年度と同様に低い値に留まった。一方、出席と努力は4.4、3.8となり、比較的高い結果となった。今後は、関連図書を読ませるなど、講義以外での学習を増やすための工夫が必要である。

難易度は3.9、学習意欲は4.0、科目全体の目的到達についての評価は3.5、満足度は4.1であり、比較的高い評価が得られた。その理由としては、各分野の知識をまとめたプリントを使用したこと、実験や心理検査等を用いたことが考えられる。満足度を上げるために今後も講義内容を改善してゆく必要がある。

科目名：機能形態基礎医学Ⅰ（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：139 配付数：76 回収数：49 回収率：64.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.3	4.3	3.5	3.1	3.0	3.7	3.5

＊評価に対するコメント

機能形態基礎医学Ⅰ 担当教員

昨年度から、「アクティブ・ラーニング」の発想で学生の相互教授・相互評価による授業を部分的に導入している。ただ、熱心に取り組む学生と意義を理解せず一向に努力しない学生との間の学習到達度の格差が目立つようになり苦慮している。今後、そもそも勉学に関してモチベーションの低い学生をどのように処遇していけばよいか、教育センターやIR室による分析と改善のための方策の提示を待ちたい。

科目名：医用機器学（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：133 配付数：130 回収数：123 回収率：94.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.3	3.8	3.1	2.5	3.0	3.3	3.2	3.5

＊評価に対するコメント

医用機器学 担当教員

平成31年度の担当講座は教育研究推進センター、入学センター、放射線医学講座で、担当教員は教育研究推進センターである。アンケートの回収率は94.6%と高かった。本評価の結果から出席意欲および全体の満足度は4近くで、ほぼ満足できると考えられる。また、科目の難易度、学習意欲への貢献は3を超えており、今後の医用機器に対する理解と関心の向上に期待ができる。一方、予習、復習、宿題に関する項目はいずれも2.5前後に留まっており改善が必要と考える。個別コメントを含めた総評としては、医療への理解度がもう一段階進んだ受講学年でより理解が深まる可能性がある。

科目名：医療社会学（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：133 配付数：118 回収数：75 回収率：63.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.5	4.5	3.6	3.0	3.1	3.1	2.7	2.8

＊評価に対するコメント

医療社会学 担当教員

全15回の授業の前半は、医療を文化的・社会的文脈から理解する重要性を強調した講義を行いました。後半は、医療社会学実習で取り組む社会調査を企画し準備することに履修生が取り組みました。学生の授業評価、授業内での課題の回答などをみると、授業内容と学習の準備状況がうまく対応していない部分があるとわかりました。医療社会学実習の学習成果なども勘案して、今後の授業内容を模索していきたいと考えています。

科目名：生化学1（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：132 配付数：132 回収数：127 回収率：96.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.1	3.7	3.6	3.6	3.5	3.7	3.9

＊評価に対するコメント

生化学1 担当教員

生化学1は代謝の基本的な部分に関する内容で、2年次では医学部らしい講義と言えます。9人の方からご意見があり、良かったとするもの7つ、小テスト・レポート理解が深まる /3、プリント・スライド解りやすい /3、過去問配布良い /2、でした。改善すべしとするご意見は2つで、カタカナだらけで難解、時間が足りない、というものでした。カタカナが多いのは高度専門職を目指す科目として残念ながら避けられませんが、講義内容の配分について見直すなど、来年度に向け改善に取り組んで参ります。今回、再試対象者は8名、平年並みと言えますが、日々積み重ねて行って頂きたいと存じます。

科目名：生化学2（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：135 配付数：135 回収数：80 回収率：59.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.5	4.3	3.7	2.8	3.1	3.1	3.3	3.3

＊評価に対するコメント

生化学2 担当教員

生化学2は生化学1に引き続いて人体を機能させている代謝について、病態と関連付けて紹介しています。主な御意見は、資料不備で分かりづら (4/12)、英語大変 (3/12)、聞き取りにくい (2/12) でした。講義資料での詰込み過ぎ、見辛いなど改良して参りますが、次の英語については同意できません。

医学専門英単語に対する awareness は専門知識への速やかなアクセスに有用であり、苦勞して時間をかけ辞書を当たって調べる、それが勉強だと思います。何故、医師が高度専門職と言われるのかももう一度考え直して頂きたく、頑張っって精進を続けて良い医師を目指して下さい。もちろん、人生のこの時期にしかできないことも多々ありますし、知識だけで良い医師になれるということでもありません。存分に旭医を堪能し貪り尽くして、良い医師になるための糧として頂きたいと存じます。聞き取りづらい点については、マイクの音量を大きめに参ります。

科目名：免疫学（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：134 配付数：133 回収数：124 回収率：93.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.0	3.6	2.9	3.3	3.2	3.5	3.6

＊評価に対するコメント

免疫学 担当教員

問7で3.5、問8で3.6の評価で前年を下回りました。指摘事項では、担当講師数が多く講座間で連携が取れていない、まとまりがない、体系的でない、コマ数が多いなどの指摘を受けました。これは、免疫学は多領域にまたがり、内容的にもフアジーで未だ不確定な要素の多い、難しい学問領域のためかと思われます。さらに専門講座がないため、多くの講座の先生によって開講されているのも要因です。専門講座がないにも関わらず、30コマは多いと考えます。コマ数を少なくしてむしろコンパクトにした方が良いと思われます（免疫学実習も含めて検討課題です）。定期試験の問題のレベルは至って標準的なものです。最低限はクリアしてください。

科目名：医学英語Ⅲ（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：117 配付数：110 回収数：104 回収率：94.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.4	3.9	3.4	3.7	3.5	3.6	3.7

＊評価に対するコメント

医学英語Ⅲ 担当教員

医学英語Ⅲは、学生のみなさん全員が取り組む e-learning コースと、講師ごとに分かれて行う選択コースの組み合わせで展開しました。例年と比較すると、e-learning コースの量が多いとのコメントを頂きました。来年度は工夫したいと思います。

科目名：心肺病態制御医学（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：118 配付数：118 回収数：75 回収率：63.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	3.7	3.7	3.0	3.5	3.5	3.9	3.9

＊評価に対するコメント

心肺病態制御医学 担当教員

内科系・小児系・外科系と多方面から構成されている循環器・呼吸器の系統講義にある程度の重複はやむなしですが、無意味な反復は避けるよう構成されています。授業展開にもう少し余裕があれば、反復で知識を確実にする効果も期待できるはずですが、3学年最初の数ヶ月で終了してしまう短期集中臨床講義であるため、5学年の臨床実習時点では、循環器・呼吸器の知識はかなり危うい状況にあります。講義展開の時期・方法にも新たな工夫が求められています。授業担当の各科の先生方には忙しい中で真摯に対応いただき頭の下がる思いですが、コーディネーターとしては、学生の意見にも耳を傾けたいと願っております。

科目名：消化器医学（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：118 配付数：118 回収数：41 回収率：34.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	3.9	3.8	3.2	3.5	3.7	3.9	3.9

＊評価に対するコメント

消化器医学 担当教員

たまたま、現在、私は病院長の席にあるため、病院の退院時のアンケート調査や投書箱からのご意見にすべて目を通すことになる。お褒めの言葉をいただけることもあれば、お叱りの言葉をいただくこともある。特にお叱りをうけた時は、対応すべき部署がそれぞれ改善すべき内容をしめし、投書した相手が分かっている場合は、その内容をお伝えするようにしている。確かに、アンケート結果を発表するのは大事だが、それよりも印象に残った授業や不十分だった授業について何が問題であったかを具体的に指摘してもらうことがより、大事である。今回の評価結果は、例年と大きく変わっておらず、これでは何も変わらない。

科目名：麻酔科学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：119 配付数：119 回収数：25 回収率：21.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.9	4.3	3.1	3.5	3.9	4.1	4.3

＊評価に対するコメント

麻酔科学 担当教員

麻酔科学は、2年前まで合同で行われていた救急医学分野から分離され、歴史・薬理学などの総論から、各科手術の麻酔を含めた各論まで、主に周術期の全身管理に関する内容から構成されている。講義スライドや資料をデジタル化して7年が経過し、概ね順調に経過している印象である。今後も資料・講義内容を検討し、受講生の理解・知識獲得に役立てられるものになるように改善に取り組んでいきたい。

科目名：救急医学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：119 配付数：110 回収数：41 回収率：37.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.6	4.5	4.2	3.3	3.8	4.0	4.2	4.1

＊評価に対するコメント

救急医学 担当教員

講義企画に対する学生評価に関しては、回収率37.3%と低くこの結果をもとにコメントするのは難しいと思われる。回収率の低い原因は回収方法にあるのか、あるいは他に原因があるのか検討が必要。

この結果からだけ言えることは、学生が予習復習を行っていないが、学習意欲はある程度あるということだと思います。予習復習を促すような講義方法の工夫が我々にとっては必要と思われます。

科目名：整形外科学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：119 配付数：119 回収数：104 回収率：87.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.3	4.0	3.6	4.0	4.0	4.0	4.2

＊評価に対するコメント

整形外科学 担当教員

学生の学習意欲等を表す問1～4の平均は、3.85であり例年どおりで3点台であった。毎年、教科書等の指定はするが、経済的な理由などで医療書籍は準備せずに授業に臨む学生が多い。授業でハウツー本や電子書籍を使用する学生もみられるが、系統だった医学講義は、生涯でこの時期だけであり、予習や復習が容易となる資料の工夫が望ましいと推察する。講義内容関する評点は例年通りであったが講義資料は今後検討する。

科目名：腫瘍学2（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：120 配付数：120 回収数：92 回収率：76.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.4	4.3	3.9	3.5	3.7	3.7	3.8	3.9

＊評価に対するコメント

腫瘍学2 担当教員

今後の学習意欲を増すか？全体として満足できるか？の項目は3.8, 3.9であり昨年3.3, 3.4、よりは改善したが未だ満足できる状況ではない。難易度が適切か？は3.7と昨年の3.0より改善したが未だ低い、各講義がより専門性の高いものになっている可能性があるが、系統講義で学習したアドバンス版と考えると、有意義なはずである。今後益々重要になるゲノム医療、個別化医療についての内容も盛り込んでいきたい。

科目名：臨床放射線学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：119 配付数：119 回収数：116 回収率：97.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.2	3.9	3.3	3.7	3.6	3.8	3.9

＊評価に対するコメント

臨床放射線学 担当教員

アンケート結果に関しては関係者の間で情報を共有して、可能な範囲で検討したいと思います。内容の性質上、印刷物では伝わりにくい部分もありますが、今後もニーズに沿ったより良い講義を行いたいと考えています。実習でも頑張ってください。

科目名：法医学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：119 配付数：119 回収数：94 回収率：79.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.4	4.1	3.6	4.1	4.3	4.3	4.4

＊評価に対するコメント

法医学 担当教員

法医学は、基礎医学の中の社会医学に位置し、異状死体の死因究明を的確に遂行することができる臨床医になるため必要な知識を学ぶことを講義の目標としている。授業評価は平均評点4点以上と、学生からは興味をもって受け入れられたことに感謝している。今年度より講義資料の配布を学習支援システム（manaba）への掲載に完全移行したことが好評であった。

科目名：臨床疫学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：119 配付数：119 回収数：95 回収率：79.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.2	3.9	3.5	3.6	3.7	3.7	3.8

＊評価に対するコメント

臨床疫学 担当教員

同じ時期に社会医学講座として開講している衛生・公衆衛生に比べ、暗記よりも理解が必要な面が多く、英語の原著論文を扱うなど、やや難解だったかもしれませんが、実臨床で参照する原著やメタアナリシス論文を読む際の基本となる部分なのでしっかり勉強を続けてください。

科目名：臨床検査学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：119 配付数：119 回収数：93 回収率：78.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.3	4.0	3.6	4.0	4.3	4.2	4.3

＊評価に対するコメント

臨床検査学 担当教員

問8の総合評価では今年は4.3をいただきました。科目内容では問6で示した難易度で4.3、問7で示した学習意欲は4.2と評価をいただきました。これからも意欲が高まるように配布資料の工夫、最近の検査機器の写真や注目される遺伝子検査など新しい検査技術の紹介など授業内容の充実、授業方法の改善に取り組みます。また検査値の読み方トレーニングなどを紹介して臨床実習や研修における学生の実用的な力となれるように努力します。

科目名：健康弱者のための医学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：119 配付数：115 回収数：94 回収率：81.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.3	3.7	3.2	3.9	4.1	3.8	4.0

＊評価に対するコメント

健康弱者のための医学 担当教員

救命や介護の技術の発展により健康に弱みを持ちつつ社会する方々（健康弱者）が増えている。健康弱者が疾病に罹患した場合、異なった諸反応や病態が起こるものの、現代医学教育では健常者が健康を損なった場合しか学ぶ機会が無い。そこで健康弱者に対する医学的福祉的対応について学ぶために2012年に創設された科目である。将来いずれの臨床科においても役立てられる事を期待したい。教科書が存在しない事から予習、復習の評価点数が低い、総合評価4.0と科目の意義は理解されていると思う。

科目名：衛生・公衆衛生（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：119 配付数：119 回収数：92 回収率：77.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.1	3.9	3.5	3.8	4.0	4.0	4.1

＊評価に対するコメント

衛生・公衆衛生 担当教員

医療制度や国民衛生の動向、予防医療、産業医学など、今回の衛生・公衆衛生学で学んだ内容は社会の中の医師としての役割を果たすための重要な知識となりますので、今後も勉強を進めてください。

科目名：医療情報学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：119 配付数：119 回収数：100 回収率：84.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.4	3.8	3.2	3.9	4.1	3.8	4.1

＊評価に対するコメント

医療情報学 担当教員

本講義は、1) 医療情報に関する基礎理論、2) 医療情報管理、3) 医療経済、4) 医療情報の社会医学への応用の4つのテーマで構成されている。履修内容は医療分野でのICT、個人情報管理、病院経営、知的財産などについてであり、いずれも医療人として習得しておきたい領域である。講義内容については、わかりやすかった、おもしろかったとする意見が中心であった。しかし、問8で講義にやや不満を持っている学生も何人かいることがわかった。今後さらに学生諸君が理解しやすく、学習意欲を増すような講義にするよう検討したい。

科目名：医療概論Ⅳ（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：119 配付数：118 回収数：92 回収率：78.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.2	3.8	3.1	3.8	4.0	3.9	4.1

＊評価に対するコメント

医療概論Ⅳ 担当教員

2015カリキュラムでの医療概論Ⅳは、今回が2年目になります。緩和医療、老年医学、栄養学の3つのパートで構成されています。昨年指摘された「教員への時間割周知が不十分」事項には、気をつけており問題を指摘されることはありませんでした。

科目名：医療安全（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：120 配付数：120 回収数：98 回収率：81.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.4	3.8	3.2	4.0	4.1	4.0	4.1

＊評価に対するコメント

医療安全 担当教員

今年度は予定通り薬剤関連エラーに関する講義を充実させました。目標到達度も高かったと思います。今年度から取り入れたせん妄やカリキュラム全体を通して少ない薬害関連の内容を充実させていきたいと考えています。

科目名：臨床薬剤・薬理・治療学（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：119 配付数：119 回収数：100 回収率：84.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.2	3.9	3.5	4.0	4.2	4.1	4.2

＊評価に対するコメント

臨床薬剤・薬理・治療学 担当教員

学生評価の各アンケート結果は、概ね「4」を上回る高い評点を獲得していた。とりわけ、授業に対する学生の満足度（問8）に関しては、例年平均を上回る結果であった。また、学生からの感想の中に、「内容が面白い」「講義がわかりやすい」といった意見があり、今後も引き続き、学生視点からの授業の改善と学習意欲向上の実現に向けて取り組んできたいと考える。

科目名：症候別・課題別講義（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：119 配付数：119 回収数：104 回収率：87.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.3	4.2	4.0	3.4	3.8	3.9	4.1	4.2

＊評価に対するコメント

症候別・課題別講義 担当教員

臨床医学の講義は、臓器別系統講義、症候別・課題別講義と2段階で構成され、これに平行して医学チュートリアルが開講されています。言わば、縦糸に横糸、そして知識の立体的な把握を目指しているものです。講義の評価も例年と変わらず、これからも講義項目の入れ替え変更を行いつつ講義の質を上げていきたいと考えています。

科目名：初年次セミナー（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：58 回収率：95.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.9	4.3	3.9	4.0	4.0	4.0	4.2

＊評価に対するコメント

初年次セミナー 担当教員

本科目は本学看護学科創設史上初めての初年次教育に特化した科目として、本年度からスタートしました。全教員が、新入生の皆さんの利益になるようにと、考え抜いて企画した科目でしたが、学習意欲が増したかどうかについては平均4.0、全体の満足度に関しては平均4.2と、高い評価をいただいたので、方向性は良かったのではないかと考えています。ただ、我々教員にも反省は多々あり、今後改善が必要とも考えています。皆さんとの体験と評価を参考に、次年度はより充実させた企画を考案したいと思っています。また、初年次セミナーは終了しましたが、アカデミックスキルは一朝一夕で身に付くものではありません。今回関わった教員一同、皆さんのスキルが向上するように、そして充実した大学生活が送れるように、卒業するまで見守りたいと考えています。

科目名：看護社会論（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：57 回収率：96.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.0	4.7	3.9	3.2	4.1	4.6	4.3	4.5

＊評価に対するコメント

看護社会論 担当教員

本科目の目的は、現代の社会現象と看護師がかかわる現象を理解し、さらに自分自身のまわりで起きている現象を検討していただくことです。学生評価の得点を見ると、科目全体の難易度は適切であり、今後の学習意欲が喚起されたことがわかりました。今後も、履修した学生の興味や関心を引き出すような授業の進め方を模索していきたいと考えています。

科目名：発達心理学（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：48 回収数：48 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.1	4.7	3.6	3.8	3.6	3.9	3.7	4.1

＊評価に対するコメント

発達心理学 担当教員

学生自身の評価では、「出席」、「努力」が4.7、3.6と前年度よりわずかに高くなった。一方、「予習」の評価は2.1と低い値に留まった。今後は予習を促進する具体的な指導が必要であると思われる。

科目全体の達成と難易度については3.6、3.9、意欲と全体の満足度については3.7、4.1であり、例年と同様の評価を維持できた。これは、実習とレポート課題により基礎心理学の理解を深める授業を行ったこと、動画等を含むマルチメディア教材を用いたこと、発達心理学の基礎をまとめたプリントを利用したことによると思われる。今後も内容の改善を続けることで、より高い評価を目指したい。

科目名：情報リテラシー（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：56 回収数：56 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
1.7	4.8	3.8	2.5	3.7	3.6	3.3	3.8

＊評価に対するコメント

情報リテラシー 担当教員

Due to the large individual differences in their basic abilities of information literacy, it has become difficult to teach 60 students at the same time using the same level of teaching materials-some students complain that the level of lecture content is low, whereas others complain that the content of the lecture is difficult. It is a pity that we don't know what the students want because there is no description in the questionnaire. The contents to be improved are also not described in the questionnaire. In fact, the results of this questionnaire seem to reflect the students' own assessment of their attitude to study.

科目名：医療史・医療哲学（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：49 回収率：83.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.4	4.5	4.3	3.3	4.1	4.2	4.1	4.3

＊評価に対するコメント

医療史・医療哲学 担当教員

本講義は、生や死、人生の意味、自律、信念対立など医療に通底している哲学的テーマについて検討することで、科学的知見や経験則を覚えることが主体になってしまっている現状において、自分で「考える」ことを経験できる講義である。テーマの性質上、ひとつの答えはなく、どうしても難易度があがってしまうため、この部分の評価点はのびていないが、今後看護を学んでいくにあたっての基礎体力がついたものと信じている。

科目名：看護学概論（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：59 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
4.0	4.9	4.4	4.2	4.1	4.3	4.3	4.5

＊評価に対するコメント

看護学概論 担当教員

点数として高評価をいただき、科目としては及第と理解します。新しいカリキュラムとなり、単位数が1単位15時間になったことから、昨年と比べてディスカッションの回数や課題提出を減らしましたが、これから看護学を学んでいくうえでの基盤となる知識や思考技術は習得できていたと考えています。今後の学習に期待します。

科目名：コミュニケーション論（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：58 回収数：53 回収率：91.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.3	4.5	4.0	3.3	4.0	4.2	4.2	4.3

＊評価に対するコメント

コミュニケーション論 担当教員

新カリキュラムで導入され、今年度から開講されました。この科目は、人間関係を個人から集団レベルまで広く捉えながら、コミュニケーション理論の理解とそれに基づいたスキルを学ぶことを目的としており、知識の獲得のみならず、演習を通して実践できるまで目指しています。評価において今年度は小テストを導入していますが、単に学生の知識の確認レベルではなく、動画を視聴してレポートを書いてもらうことで、授業内容をさらに深めて考えを整理することにつながっていたと考えます。授業評価は、一定の基準には到達していますが、今後は自己学習面の工夫をさらに考えていきます。

科目名：栄養学（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：59 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.7	4.7	3.9	2.8	3.7	3.8	3.9	4.1

＊評価に対するコメント

栄養学 担当教員

本学科は、旧カリキュラム代謝栄養学の栄養学領域を1単位の学科として独立させた内容になります。教員も変更されて新しく始まった栄養学ですが、アンケートの結果は、従来の代謝栄養学とほぼ同じで、難易度など含め適切な内容であったと思われまます。次年度も本年度同様、わかりやすい講義・構成を心掛けたいと思います。

科目名：統計学（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：58 回収率：95.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.6	4.3	3.8	2.9	3.8	4.0	3.7	4.3

＊評価に対するコメント

統計学 担当教員

社会人（医療人）としての常識程度の統計学の基本の習得を目的とし、筆記試験7割、実習レポート3割で成績を評価しています。今年度も全体的により評価をいただき、受講者も落ち着いて取り組んでいるように見受けられました。本講義を除けば、量的記述の基礎体力となる、計算、数字に触れる機会が看護学科ではなくなってしまいますので、責任をもって取り組みたいと思います。今年度は授業後、試験前の質問等が活発で、フォローアップでいただいた意見も参考にして質を高めていきます。今後、統計学を復習される機会があれば、質問には対応しますのでお尋ねください。

科目名：精神看護学Ⅰ（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：33 回収率：54.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.1	3.7	2.8	3.6	3.8	3.7	3.8

＊評価に対するコメント

精神看護学Ⅰ 担当教員

この科目は、精神看護の基礎となるように精神保健について身近な社会問題を紹介しながら授業を展開しています。学生に精神保健に関する興味を抱ききっかけを作り、自己学習で知識を増やし精神看護に対する考えを深めることを期待しているのですが、十分に予習復習がされていないのが現状です。今後は、学生に興味関心を高めるようなトピックの選定や自己学習の方法を具体的に示していきます。

科目名：看護過程論（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：56 回収数：56 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
4.0	4.8	4.7	4.7	4.0	3.7	4.5	4.3

＊評価に対するコメント

看護過程論 担当教員

講義とグループワーク、模擬患者演習によって構成される科目であり、基盤として個人での学習が求められています。主体的に課題に取り組んでいる（個人学習もグループ学習も）学生は看護過程展開技術の習得ができていましたし、準備が足りない学生はそれなりの成果しか得られていません。11月の基礎看護学実習Ⅱで本科目での看護過程展開技術の習得状況が明らかになるので、ぜひ頑張ってください。

科目名：疫学Ⅰ（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：60 回収率：98.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.6	3.9	3.3	2.8	3.5	3.4	3.2	3.4

＊評価に対するコメント

疫学Ⅰ 担当教員

疫学Ⅰは、調査による研究方法について学ぶ講義で、高校では習わない科目です。この講義も保健統計と同様に卒業後に行う看護研究で必須の知識ですので、しっかり身につけてもらいたいと思っておりますが、評価では事前の学習や復習が十分に行われていないようです。本科目は内容の暗記だけでは不十分で、実際の現場で応用できることが求められます。3年生では疫学Ⅱ（選択）が行われますが、講義は2年生の復習と保健師国家試験問題にむけた内容となります。疫学Ⅰの理解が不十分であったりもう少し理解したいと考えている人は積極的に受講されることを勧めます。

科目名：保健統計Ⅰ（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：60 回収率：98.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.5	3.8	3.4	2.8	3.5	3.2	3.2	3.3

＊評価に対するコメント

保健統計Ⅰ 担当教員

保健統計学は卒業後も看護研究や保健師の地域保健活動などで使用されるので、最低限知っておくべき事柄が少なくありません。評価では講義に対する全体的な理解度があまり高くないことが示されていますが、少なくとも講義の復習は必須です。3年生では行われる保健統計Ⅱ（選択）では、2年生に復習に加えて、実際に情報処理室で統計解析を行いますので是非受講して下さい。尚、講義の方法でコメントを頂いて

おりますが、本講座はオムニバスで行っていますので、ミーティングの際に反省点として取り上げ、改善すべきところは修正したいと思います。

科目名：リハビリテーション看護学（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：59 回収率：96.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.8	4.4	3.8	3.6	4.0	4.1	4.1	4.1

＊評価に対するコメント

リハビリテーション看護学 担当教員

科目全体の満足度、学習意欲、難易度、到達目的の達成についての評価が高く、専門による講義の成果といえる。予習・復習についての点数は低かった。これに関しては、教科書を使わないので買う必要があったか疑問であるとのコメントもあった。最初の授業時間に、リハビリテーションの専門職による最先端の講義内容と教科書を関連づけて学ぶようアナウンスしているが、十分伝わっていなかったようである。今後は伝え方を工夫し、強調したい。

科目名：病態学（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：61 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.6	4.0	3.7	2.9	3.9	4.3	4.3	4.6

＊評価に対するコメント

病態学 担当教員

本年度も昨年同様、manabaに確認ドリルを用意し、知識の定着をはかる構成にしました。評価ポイントは例年通りで、ほぼ適切な企画であったと考えています。病態学は本年度で終わり、新カリキュラムでは、病理学総論（1年生）と病理学各論（2年生）に分かれます。病態学の経験の礎として、新カリキュラムにおいても、より効率よく学べて、達成感の得られるような内容を心掛けて、講義を企画したいと思います。

科目名：在宅看護学（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：56 回収数：54 回収率：96.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.7	3.9	3.8	3.8	4.0	4.1	4.1

＊評価に対するコメント

在宅看護学 担当教員

学生の皆さんが授業に毎回真面目に出席していました。在宅で行う看護のイメージがつきにくい中でしたが、授業、グループワーク、非常勤講師による実践をご教授頂き理解を深めました。在宅看護にかかわる法令・制度、幅広い中からニーズの高い疾患、在宅ならではの強みも生かした看護過程の考え方など、特徴が理解出来たことが評価できます。今後も学習意欲や満足が高められる授業になるよう努めて参ります。

科目名：英語文献講読（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：40 回収率：66.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.7	4.7	3.9	3.8	3.9	3.6	3.4	3.4

＊評価に対するコメント

英語文献講読 担当教員

「英語文献講読」では、学生の皆さんがグローバルな視点から健康問題を意識し、看護師や保健師として活躍する際に活用できる英文読解力や実践的英語力の基礎を養うために、皆さんが関心ある看護・保健・医療テーマの英語文献教材で工夫し展開しています。一方、英語の苦手意識がある学生には、読解の難解さがぬぐえなかったようです。今後も皆さんの関心が高まるよう工夫を続け、より楽しめるよう共に目指したいと思います。

科目名：がん看護学（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：46 回収率：76.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.6	4.0	3.9	3.7	3.6	3.8	3.8

＊評価に対するコメント

がん看護学 担当教員

がん看護学の学びを得るため、毎回の授業において出席など積極的姿勢がみられました。学生の誰しものが将来一度は出会うがん患者さんへのQOLをどのように理解し、支援するかについて、よく検討することができていたと思います。一方、15コマの内容は濃密でスピード感が求められるため学習達成感を損なったようです。今後は、みなさんの更なる自律した学習姿勢と事例展開の工夫によって、より効率的学習を共に目指したいと思います。

科目名：成人看護学Ⅱ（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：56 回収数：44 回収率：78.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.8	4.7	4.3	4.1	3.9	4.0	4.2	4.2

＊評価に対するコメント

成人看護学Ⅱ 担当教員

例年、ガイダンス時に講義の予習として学生に課している事前課題について説明し、全学生が期限までに提出できているのだが、今年度は講義の予習に関する項目である問1が「3.8」と最も低かった。この結果から、事前課題の目的を十分理解しないまま課題に取り組んでいた学生が複数いたことが推測される。来年度は、事前課題の目的に関する説明をより強調して行い、学生が課題の意図を十分に理解して取り組めるようにする必要がある。

科目名：高齢者看護学Ⅱ（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：54 回収率：90.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.4	4.5	4.0	4.0	3.9	4.0	4.0	4.0

＊評価に対するコメント

高齢者看護学Ⅱ 担当教員

全体的に評価は高かった。manabaを活用して講義資料を提示したが、閲覧していない者や講義資料を準備していない学生があった。期限を設けず資料をアップしてほしいという意見や経済的な負担から印刷できないとのコメントもあった。今後manabaの活用については、学生支援課・教育センターの意見を聞いて検討したい。

科目名：保健医療福祉システム論（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：57 回収率：95.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.5	4.1	4.1	3.9	4.1	3.9	4.1

＊評価に対するコメント

保健医療福祉システム論 担当教員

看護の対象は人です。今、医療を中心に学ばれている皆さんが医療だけでは人を支えられないことに気づくことを期待しています。また看護に直接関係ないように見えますが法律や制度、経済を学ぶことは人々によりケアを提供するための土台でもあります。幅広い内容で資料も膨大で苦勞したという声がありました。今後は少しでも興味を持ち皆さんが理解しやすいよう工夫していきます。

科目名：国際保健看護論（看護学科第4学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：56 回収数：43 回収率：76.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.5	4.4	3.7	3.6	3.7	4.0	3.8	3.8

＊評価に対するコメント

国際保健看護論 担当教員

統合分野として、看護を国内外へと視野を広げ学んでいく科目です。人々の生活と健康は日常的に世界とつながっており世界に目を向けていくこと、文化的背景の違う人々への看護として異文化への理解と尊重、コミュニケーションについてお伝えしました。加えて健康危機管理として災害活動についてもお伝えしました。国際保健看護と災害看護の土台となる人道支援についても視点が広がったと期待します。

科目名：医療安全論（看護学科第4学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：40 回収率：67.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.1	4.7	3.8	2.8	3.9	4.1	4.0	4.3

＊評価に対するコメント

医療安全論 担当教員

成績評価や学生評価等から勘案すると、科目全体の到達目標はほぼ達成でき、科目全体の難易度も適当と判断する。・医療安全論の講義では、臨床の医療安全管理者にも協力いただき、「医療安全ポケットマニュアル」の活用などでより実践的な内容になったと考える。・学生の予習・復習に関する自己評価はやや低かったが、授業の出席率は高くグループワーク等への参加も積極的であったことから集中して学ぶことができたと考える。

実習企画（または演習企画）に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。
	問2 実習（演習）に毎回出席しましたか。
	問3 実習（演習）に積極的かつ真面目に参加しましたか。
実習（演習）計画	問4 実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。
	問5 実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。
	問6 学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。
	問7 指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。
	問8 指導担当者間の連携は適切でしたか。
実習（演習）内容	問9 実習（演習）の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。
	問10 事前に配布された資料は、実習（演習）を進める上で役立ちましたか。
	問11 実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。
	問12 実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。
	問13 課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。
	問14 実習（演習）は今後の学習への意欲を増す内容でしたか。
実習（演習）環境	問15 実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。
	問16 安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。
	問17 学生の人権に対する配慮がなされていましたか。
総合評価	問18 この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強く思う （非常に良い）
 ④ やや思う （良い）
 ③ どちらとも言えない （普通）
 ② あまりそう思わない （あまり良くない）
 ① 全くそう思わない （良くない）

科目名：基礎生物学実習（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：107 配付数：106 回収数：103 回収率：97.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
2.9	4.9	4.5	4.3	3.8	4.2	4.1	3.9	4.1	4.4	4.3	4.1	3.7	4.1	4.4	4.5	4.5	4.2

＊評価に対するコメント

基礎生物学実習 担当教員

本年度は担当教員が2名減り、それにより教育効果の低下が懸念されましたが、総合的な評価は昨年度とほぼ同程度の評価をいただきました。ただし、問5に関連し、ある実習テーマにおいて、実習機器の一部を用意できなかったために別の日の実習テーマと入れ替えたり、実験が不成立となったために予め設定していた「実習予備日」に同じテーマを再実習したりしました。教員側の実習準備に問題があったことを反省し、改善します。

科目名：医用物理学実習（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：107 配付数：105 回収数：89 回収率：84.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.0	4.9	4.5	4.1	4.5	4.3	4.2	3.8	4.0	4.2	3.8	3.8	3.4	3.4	4.1	4.3	4.0	3.7

＊評価に対するコメント

医用物理学実習 担当教員

総合評価は3.7で、ここ5年間の平均である3.8とほぼ変わらない。それぞれの項目は、昨年度より0.5ポイント下がった問1（予習）を除き、あまり変化はない。予習をしないと実習の全体像がわからず、円滑に実験を行うのに支障をきたすおそれがある。実習に費やす時間にも影響を及ぼすだろう。

科目名：生化学実習（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：132 配付数：132 回収数：132 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.4	4.7	4.3	4.2	4.4	4.1	4.2	4.0	4.0	4.2	3.9	3.9	3.6	3.7	3.8	4.2	4.4	4.0

＊評価に対するコメント

生化学実習 担当教員

先ず、50件以上もの建設的なご指摘に深謝致します。内訳は、電気泳動槽の不足16件、履修者間の温度差8件、洗浄ビンやピーカーなど物品の不足が7件、その他、実習書の記載の改善点など多数の有益なご指摘を頂いています。予算の枠という制限はありますが、ご指摘を生かして最善の実習を目指して改善して参りたいと思います。また、懇切な指導等良かったのご指摘も4件、問18の4.0という得点からも有意義な実習だったことが伺え、スタッフ一同嬉しく思っています。最後に老婆心ながら、仕事はできる人のところに集まってくるものです。高度専門職を目指す皆様には、他人のことを論うより自身を高めることに注力して頂きたいと存じます。

科目名：形態学実習Ⅰ（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：133 配付数：118 回収数：78 回収率：66.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.4	4.8	4.4	4.2	4.3	3.3	4.3	4.0	4.2	4.3	3.8	3.5	3.5	3.8	4.1	4.3	4.2	4.0

＊評価に対するコメント

形態学実習Ⅰ 担当教員

形態学実習Ⅰは、「組織学実習」と「骨学実習」から構成されており、人体の正常機能と構造を理解することを目的としています。このうち、組織学実習に関しては、「組織切片を光学顕微鏡で観察し、その特徴を絵に描いて記録・説明することができる」ことを目標としています。本年度は、真面目に実習に取り組む様子が伺われ、積極的に質問する学生も多い印象がありました。また、実習の終わりにはスケッチを提出してもらい（昨年度より実施）、私たち教員が採点（A,B,Cの三段階評価）するという取り組みも行いました。特に、本年度はクオリティーの高いスケッチ（A評価を受けるスケッチ）を提出する学生が多く、驚いております。骨学実習に関しては、骨の細部までしっかりと覚えようとする意欲的な学習態度もみられました。

本実習に関して、私たち教員が「励みになる内容」、「反省しなければいけない内容」を含め、様々なコメントをいただきました。これらの意見を参考にし、来年度の教育に反映させていきたいと思っています。組織学実習において、スケッチは大変重要であるので、来年度も継続していくつもりです。

科目名：免疫学実習（医学科第2学年前期／必修）

履修者数：133 配付数：119 回収数：52 回収率：43.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.2	4.9	4.5	3.8	4.4	4.0	4.2	4.0	3.8	4.0	3.7	3.8	3.7	3.9	3.8	4.4	4.5	3.9

＊評価に対するコメント

免疫学実習 担当教員

免疫学実習は専門の講座がないため学内の多くの講座の先生方の協力によって行われています。このため多岐に渡るテーマを取り上げており、講座間の連携がとれていないとの指摘がありましたが、本学には専門の講座がないので仕方ありません。これもあってか、総合的には3.9の評価でした。講義でやったことと関連性がない実習で意味がないとか、演習実習において、講義で教えられていないのに、学生に調べさせるのはどうかとかありましたが、そもそも学問は自ら学び疑問点を解決するものではないでしょうか(特に実習において)?その動機づけが成されていない現状は、本学のチュートリアル教育の不備不能(無意味)を示すものと考えます。実習班の人数が多いとの指摘がありますが、本学の定員が現時点で多いので仕方ありません。そして経営上、教員数の限界もあります。ご理解頂ければと考えます。

科目名：微生物学実習（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：118 配付数：118 回収数：95 回収率：80.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.0	4.7	4.2	4.3	4.4	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	4.2	4.2	4.3	4.1	4.1	4.3	4.4	4.3

＊評価に対するコメント

微生物学実習 担当教員

学生の皆さん、微生物学実習は、講義で学んだ微生物学の事象と理論を具現化し、観察・検証することで、微生物学に対するより深い知識の習得を目的として、実習を進めましたが、如何だったでしょうか。本実習を通して、細菌培養法、臨床現場での未知の細菌の同定法、ウイルス培養法などを学んでもらいました。しかし、これら同定法や培養法などは普遍的なものではありません。従って今後も実習内容の見直しをおこない、常に微生物の最前線を学んで貰えるよう実習内容の改善を行いたいと思います。

科目名：寄生虫学実習（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：118 配付数：117 回収数：117 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.5	4.6	4.1	3.7	4.1	3.4	3.5	3.6	3.8	3.8	3.7	3.7	3.5	3.5	3.5	3.4	3.5	3.5

＊評価に対するコメント

寄生虫学実習 担当教員

寄生虫感染症に対する適切な診断・治療を行うには寄生虫種の同定が必要です。本実習では寄生虫標本、病理標本を肉眼、顕微鏡で観察し、寄生虫の形態学的特徴や病原性発現を理解し、患者さんを前にして異種病原体(寄生虫)をほぼ間違いなく拾い上げる鑑別眼を養う必要があります。そのためには実物を体感することです。実習内容は適切な質と量であったと思われれます。

科目名：薬理学実習（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：118 配付数：110 回収数：59 回収率：53.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.1	4.9	4.4	4.3	4.5	4.3	4.4	4.3	4.4	4.4	4.2	4.3	4.1	4.3	4.3	4.3	4.4	4.4

＊評価に対するコメント

薬理学実習 担当教員

薬理学実習は、生体に投与した薬物が効いていることの実体験、さらには、得られた結果から妥当な薬理作用を考察し、講義で得た知識を定着させることを目的としています。実習では少しの薬物を用いただけでしたが、高評価でしたので、薬が効くということは実感して頂けたと考えております。本実習が、皆さんの知識定着の一助となれば幸いです。

科目名：病理学実習（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：118 配付数：118 回収数：70 回収率：59.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.7	4.7	4.5	4.0	4.4	4.1	4.1	4.0	4.1	4.1	4.0	3.7	3.6	3.9	3.9	4.1	3.9	3.9

＊評価に対するコメント

病理学実習 担当教員

例年通り、腫瘍病理分野、免疫病理分野がそれぞれ7回の実習を行い、最後に実習試験を実施した。腫瘍病理では昨年に引き続き、系統別実習に平行して剖検症例の検討を進める形をとった。剖検症例は全身の病態の関連を理解する上で有効と思われ、学生の半分程度は意欲的に取り組んでいたように見えた。バーチャルスライドを利用する学生が昨年よりも増えたこともあり、実習室の現在のWiFi環境では膨大な通信量に対応できなくなっている。学生のコメントの中にも実習室内の通信状態を改善を希望するものが多く、できるだけ早く対処したいと考えている。

科目名：生理学実習・演習（医学科第3学年前期／必修）

履修者数：118 配付数：118 回収数：116 回収率：98.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.0	4.7	4.4	4.3	4.3	4.2	4.3	4.1	4.3	4.3	4.1	4.0	3.3	4.1	3.7	4.2	3.9	4.2

＊評価に対するコメント

生理学実習・演習 担当教員

総合的な満足度は4.2であり、例年並みであった。その得点の中身を解析すると、予習をしたかどうかが総合的な満足度に影響を与えている可能性があった。来年度はガイダンスで予習の重要性を訴えるとともに、学生諸氏が事前に実習書を開くような工夫をしたい。提出するレポートの数が多すぎるという声は今年も聞かれるが、学生たちの負担感を軽減するためにレポート作成日の有効な使い方などを探りたい。

科目名：衛生・公衆衛生実習（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：119 配付数：119 回収数：93 回収率：78.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.2	4.7	4.3	4.1	4.3	4.3	4.4	4.1	4.3	4.3	4.2	4.2	4.0	3.9	4.2	4.3	4.4	4.2

＊評価に対するコメント

衛生・公衆衛生実習 担当教員

同名の授業科目と連動した実体験を通して理解を深めている。過去には、グループに分かれ個別テーマの実験、調査、実地見学を行い成果を学会形式の発表会で分かち合った。カリキュラム変更により期間が短縮されたため、全体での環境測定、疲労評価、データ解析法の演習と、衛生・公衆衛生の実務関連の講演を行っている。実体験で得るものは学習効果が高いので出席を重視した。総合評価4.2と一定の効果があつた。

科目名：法医学実習・演習（医学科第4学年前期／必修）

履修者数：119 配付数：119 回収数：93 回収率：78.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.3	4.6	4.3	4.2	4.3	4.2	4.3	4.3	4.3	4.4	4.2	4.2	4.3	4.2	4.2	4.3	4.3	4.3

＊評価に対するコメント

法医学実習・演習 担当教員

H24年度のカリキュラム変更により法医学関連講義のコマ数が激減した為、実習は「演習を取り入れた講義」とせざるを得ないのが現状の中、DNA実習、薬物実習、骨実習、死亡診断書（死体検案書）の書き方を昨年同様実施した。学生からのコメント及び授業評価の評点は概ね4点以上であり、今年も好評であったと言える。

科目名：基礎看護技術学Ⅰ（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：58 回収数：52 回収率：89.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.6	4.9	4.8	4.7	4.6	4.6	4.7	4.5	4.6	4.7	4.5	4.5	3.9	4.6	4.6	4.7	4.6	4.7

＊評価に対するコメント

基礎看護技術学Ⅰ 担当教員

皆さん、授業評価にご協力いただきありがとうございました。回収率の高さからも評価からも皆さんが熱心にこの学習に取り組んだことが伝わってきました。アポイントメントを取らずに質問や個別指導が受けられる実習室アワーが好評なので、今後も続けていきたいと思えます。

科目名：基礎看護技術学Ⅲ（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：61 配付数：60 回収数：41 回収率：68.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.6	4.8	4.7	4.6	4.6	4.6	4.5	4.3	4.6	4.7	4.2	4.4	4.2	4.4	4.5	4.6	4.4	4.5

＊評価に対するコメント

基礎看護技術学Ⅲ 担当教員

演習が今後の学習への意欲を増し、満足できる（評価4.4～4.5）という評価であり、科目責任者として嬉しく思います。科目の目標到達に必要な学習を促進するために、小テストを用いました。演習内容の難易度、提出物の量・内容はおおむね適切（評価4.2～4.4）ということや、出席・参加（評価4.7～4.8）ということから皆さんが主体的に必要な学習に取り組めた演習企画であったと考えます。

科目名：実践看護技術学Ⅰ（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：57 回収率：95.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.3	4.8	4.7	4.6	4.7	4.5	4.5	3.9	4.6	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.2	4.7	4.5	4.5

＊評価に対するコメント

実践看護技術学Ⅰ 担当教員

学生の皆さんが実践看護技術学Ⅰに毎回真面目に出席していました。幅広く在宅で行われる実践看護の中でも頻度が高い技術について、演習を行いました。全体的に評価が高く、積極的にグループや個別に技術の練習が行えており、知識も理解出来たことが評価できます。必要なところは改善しながら学習意欲や技術を高められる演習になるよう努めて参ります。

科目名：高齢者看護学演習（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：41 回収率：68.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.9	4.9	4.6	4.5	4.3	4.5	4.4	4.2	4.4	4.5	4.4	4.4	4.2	4.4	4.2	4.4	4.5	4.4

＊評価に対するコメント

高齢者看護学演習 担当教員

予習に関する得点以外は高得点であった。回収率も約7割の学生が提出しており、今回の結果は評価できると考える。問15の演習用具が不足しているとの指摘があり、体交枕などの物品について充足していきたい。問13については各演習後にレポートを課し、理解状況を確認するため必要であるが、内容や分量に関しては今後検討する。また毎回授業の最後に提出物の期日を伝えているが、未提出の者がおり要項を熟読するよう啓発する。

科目名：小児看護学演習（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：55 回収率：91.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.9	4.8	4.4	4.3	4.5	4.4	4.3	4.1	4.4	4.4	4.2	4.3	4.3	4.3	4.3	4.5	4.4	4.4

＊評価に対するコメント

小児看護学演習 担当教員

企画に対する学生評価は4点台であり、学生にとって概ね満足できる内容であったと考えます。この科目は4年生の領域別実習と重なる期間があったり、途中で夏休みが入ったりするため、連続した学習による成果が得られ難い状況です。しかし、学生は概ね満足できているようなので安心しました。学生の満足度と達成度が一致しているのか、この科目に続く実習等での評価が必要かと思えます。

科目名：成人看護学演習（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：49 回収率：81.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.3	4.8	4.6	4.4	4.4	4.3	4.5	4.4	4.4	4.4	4.3	4.3	4.1	4.3	4.3	4.4	4.3	4.4

＊評価に対するコメント

成人看護学演習 担当教員

成人看護学演習は、第3学年前期に履修する科目である。第3学年の11月より開始する臨地実習に向けて、より臨床の場をイメージしやすいように事例に沿った看護場面を設定し、看護技術や看護過程の演習と臨床実習で関わる認定看護師や臨床工学士の講義を履修する。回収率は、81.7%で、評価点は4.1～4.8であり、問11「技術を十分に修得できたか」の設問では、昨年の4.0から4.3に上昇し、演習企画に対する学生評価は良好だったと考える。

科目名：精神看護学演習（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：41 回収率：68.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18

＊評価に対するコメント

精神看護学演習 担当教員

これまでの授業評価を踏まえて、アクティブ・ラーニングを意識した授業展開をすることで今年度も一定の評価を学生からもらっています。学生自身が考えたことを共有し、議論したことを今後の精神看護実習に活用できることを重視しています。今年度は学生の欠席が目立ち、グループ活動も多いことから一部の学生に負担がかかってしまう課題も見えてきました。演習時のグループ活動も客観的に評価できる方法を検討していきます。

科目名：母性看護学演習（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：37 回収率：62.7%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18

***評価に対するコメント**

母性看護学演習 担当教員

おおむね良好な評価であった。唯一3点台は、問13「課された提出物の量や内容が適切か」（3.9点）であった。演習の評価はOSCEによる。提出物（紙上事例の看護過程の展開）は評価外であるが、翌週始まる実習に向けた準備として、必要な課題である。提出期限の延長を望む意見があったが、技術試験に影響しない日程を考慮し、次年度も同様の期限で進める予定であり、そのことを十分説明していく。

臨地看護実習企画に対する学生評価

実 習 計 画	実習ガイダンスは、実習を円滑に行うために役立った。 指導教員と実習指導者の連携はとれていた。
実 習 内 容	実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていた。 実習中に課された記録・提出物の量は適切であった。 指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた。 教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすかった。 受け持ち患者の看護の難易度は、適切であった。 カンファレンスは実習に役立つ内容であった。
実 習 環 境	教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものであった。 安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。
総 合 評 価	実習によって、看護職者を目指す意欲が十分に高まった。 この実習は全体として満足できるものであった。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
 ④ やや思う (良い)
 ③ どちらとも言えない (普通)
 ② あまりそう思わない (あまり良くない)
 ① 全くそう思わない (良くない)

科目名：基礎看護学実習Ⅰ（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：58 回収数：58 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.5	4.2	4.4	3.8	4.7	4.5	4.2	4.6	4.5	4.6	4.5	4.6

＊評価に対するコメント

基礎看護学実習Ⅰ 担当教員

実習の満足度は4.5、看護職者を目指す意欲は4.6の評価でした。初めての臨地看護学実習が「看護を学んでいくモチベーション」につながるものであったようで、嬉しく思います。学内カンファレンスのテーマを事前に知りたい、という意見が複数ありました。テーマは実習目標に基づいたものとしております。事前にお伝えしていないのはテーマ以外の目標に関する学びを狭めてしまわないようにする意図がありますが、お伝えするタイミングなど可能な範囲で検討して行きたいと思います。

科目名：成人看護学実習Ⅰ（慢性期）（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：18 回収率：30.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.4	4.2	4.3	4.4	4.7	4.6	4.6	4.4	4.6	4.5	4.7	4.7

＊評価に対するコメント

成人看護学実習Ⅰ（慢性期）担当教員

この実習は、第3学年後期から第4学年前期にかけて、大学病院の6階西と9階西にて2週間の期間で行う慢性期看護の実習である。回答者からは、(1) 指導教員や実習指導者から適切な助言が受けられ、(2) 実習によって、看護職者を目指す意欲が高まり、(3) 全体として満足できるものであったという回答が4.7であり、他の項目においても得点のばらつきがなく、概ね良好だったと考える。

科目名：成人看護学実習Ⅱ（急性期）（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：25 回収率：42.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.2	4.4	4.4	3.7	4.2	4.2	4.2	4.0	4.2	4.4	4.2	4.4

＊評価に対するコメント

成人看護学実習Ⅱ（急性期）担当教員

評価項目の中で、実習中の記録物の量に関する問4が「3.7」と他に比べて低いことは、急性期の特徴である早い実習展開の中での日々の記録や看護計画立案が学生にとって負担感を増したためだと考える。一方で、学びが深かったとのコメントもあったように、問4以外の項目は全て「4.0」以上であったことから、学生は実習に意欲的に取り組み、この実習企画に対する満足度も高かったとの評価ができる。

科目名：成人看護学実習Ⅲ（外来機能）（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：18 回収率：30.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.4	4.2	4.3	4.5	4.3	4.6	4.3	4.3	4.5	4.5	4.4	4.6

＊評価に対するコメント

成人看護学実習Ⅲ（外来機能）担当教員

この実習は、第3学年後期から第4学年前期にかけて、大学病院の診療科、外来化学療法センター、内視鏡室、看護外来、入退院センターでの見学実習および地域医療連携室における臨床講義であるが、回答者からは、(1) 教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすく、(2) 全体として満足できるものであったという回答が4.6であり、他の項目においても得点のばらつきがなく、概ね良好だったと考える。

科目名：小児看護学実習Ⅰ（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：56 回収数：30 回収率：53.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.5	4.3	4.7	4.7	4.6	4.7	4.5	4.6	4.9	4.8	4.7	4.8

＊評価に対するコメント

小児看護学実習Ⅰ 担当教員

全ての項目において評価は4.0台であり、学生にとって概ね満足できる実習であったと考えます。その中で、特に評価点が高かったのは「問9. 学生を尊重した対応」であり、4.9でした。この実習は保育所で行うため、病院実習との違いに学生が困らないように配慮して指導します。それが評価点に反映されたのではないかと考えます。今後も一週間という短い期間の中で、より充実した実習となるように学生を支援したいと思います。

科目名：小児看護学実習Ⅱ（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：20 回収率：33.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.3	4.3	4.5	4.5	4.3	4.4	4.4	4.3	4.5	4.5	4.3	4.2

＊評価に対するコメント

小児看護学実習Ⅱ 担当教員

全ての項目において評価は4.0台であり、学生にとって概ね満足できる実習であったと考えます。自由記載には「実習指導者からの助言が少ない」と意見がありました。その一方で、「教員からの的確な助言があった」という意見もありました。学生自身が主体的で能動的な行動をとり、学びを深められるように、教員と指導者との連携をより密にして、実習教育に取り組みたいと思います。

科目名：高齢者看護学実習（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：44 回収率：74.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.4	4.3	4.4	4.5	4.7	4.6	4.5	4.5	4.8	4.7	4.7	4.7

＊評価に対するコメント

高齢者看護学実習 担当教員

全ての項目において4.3以上となっており、回収率が74.6%(前年度46%)であることから、実習の満足度は高いと評価できる。コメントに毎回、交通費の助成に関する意見が寄せられている。高齢者看護学実習は、その特殊性から外部施設実習となっており、交通費の問題で実習施設を選定することは難しい。また助成については、学生支援課に問合せをしたところ市内の助成は認められないとの回答であったため、ご理解いただきたい。

科目名：精神看護学実習（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：18 回収率：30.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.6	3.7	4.5	4.6	4.4	4.3	4.5	4.4	4.7	4.6	4.5	4.8

＊評価に対するコメント

精神看護学実習 担当教員

今年度から精神の健康問題を抱えながら病院・地域で生活する人々を理解し、関係性を基盤に看護の方向性について探索しながらチーム医療に参画すること、リハビリを実現する多様な場の機能や特性を理解し、社会状況に応じた精神保健と看護の多様性を考えることを目的に地域における多様な支援の場に関する実習場を増やし実習形態を変更した。昨年より満足度は高く、今後さらに深められるよう検討していく。

科目名：母性看護学実習（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：32 回収率：54.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.1	4.0	4.4	3.5	4.0	4.0	4.2	4.2	4.0	4.4	4.0	4.0

＊評価に対するコメント

母性看護学実習 担当教員

昨年と比較し、すべての評価ポイントが低下した。特に外来実習・母親学級の企画に対する自由記載には指導時間の長過ぎ、指導意図が学生に伝わらないという指摘があり、病棟実習に比して不満感が高いようである。学生の主体的な発想・企画を尊重したいと考え学生に関わっているが、豈図らんや……。今後は実習内容の洗練・改訂も含め、検討する。

科目名：在宅看護学実習（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：16 回収率：27.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.1	3.9	4.3	4.4	4.6	4.6	4.3	4.1	4.7	4.4	4.4	4.6

＊評価に対するコメント

在宅看護学実習 担当教員

みなさん、在宅看護学実習はいかがだったでしょうか？楽しんで実習が出来たのではないかと思います。各ステーションそれぞれのカラーがあり、在宅看護について興味を持ってもらえたのではないかと思います。いつか、旭川医大の卒業生が、訪問看護ステーションに就職してくれることを期待しています。

第4回 先輩看護師と行う看護技術スキルアップトレーニング

12月17日(火)13時から看護学科棟基礎看護学実習室において卒業・就職を控えた看護学科第4学年が、より安心して就職することを目的として、同窓会の先輩看護師と看護技術の練習を行う「看護技術スキルアップトレーニング」が行われました。看護学科同窓会や旭川医科大学病院看護部のご協力のもと、この4月から看護師として就業予定の4年生6名が、採血、点滴静脈注射、心電図の装着、吸引、導尿の練習を行いました。参加学生達は、本学の卒業生でもある6名のチューター看護師さんから、基礎看護技術のほか、患者さんへの声かけの方法、スムーズな処置の方法等、これまでの授業や実習で学んだ内容がそれぞれの現場でどのように実践されているかについて、アドバイスをいただいていた。練習後の茶話会では、リラックスした雰囲気の中で、就職にあたり不安に感じていること、疑問に感じていることなどを相談する機会が設けられ、先輩看護師との交流を深めていました。

練習後のアンケートでは、学生から「基本的な手技はもちろん、応用の方法や絶対に注意しなければならない知識についても知ることができた」「働く前の自信につながった」「気さくに看護師さんと話すことができて良かった」、看護師さんから「和やかな雰囲気での看護師と話しながら技術を行うことは就職に向けて良いイメージができて良い」「来年一緒に働く後輩と関わることができて良かった」という感想がありました。

今回のスキルアップトレーニングでは、看護技術の習得に役立つばかりでなく、これから看護師としての第一歩を踏み出す4年生にとって、就職前の不安や悩みを解消する良い機会となったと思われます。看護学科では今後も、毎年継続して開催しますので、多くの参加をお待ちしております。



医学教育分野別評価の受審結果について

旭川医科大学医学部医学科は、医学教育の質保証の一環として、2019（令和元）年 7 月に一般社団法人日本医学教育評価機構（JACME）による医学教育分野別評価を受審しました。

その結果、世界医学教育連盟（WFME）の国際基準に基づく「医学教育分野別評価基準 日本版 Ver.2.3」に適合していると認定されました。

なお、今回の認定期間は、2020（令和 2）年 2 月 1 日から 2027（令和 9）年 1 月 31 日までの 7 年間です。

JACME からの評価報告書、本学の自己点検評価報告書等は以下の URL から参照できます。

<http://www.asahikawa-med.ac.jp/bureau/kikaku/tenken.html#03n>

なお、今回の評価で指摘された事項の改善状況等については、上記 URL のページに、「年次報告書」として、来年度から次回受審の前年度まで毎年度掲載予定です。

（総務部 企画評価課）



令和2年度授業料の免除等の申請について

令和2年度から本学の授業料免除は、「高等教育の修学支援新制度による授業料減免（以下「新制度」。）」と「旭川医科大学独自の授業料免除（以下「現制度」。）」の二制度により実施されます。いずれも申請の手続きが必要となりますので、以下の基準等に該当すると思われる学生で、授業料の免除等を希望する場合は、手続きを行ってください。

I. 授業料の免除等の基準等

1. 新制度

授業料減免・給付型奨学金が一体となった制度であり、支援対象となる学生は、住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯の学生で、次の①～③の要件があります。詳細につきましては、文部科学省等のホームページを参照してください。

①学業成績等に係る基準 ～ 成績不振により留置きとなった場合等は対象外となります。

②家計に係る基準

③その他 ～ 学士取得後に入学した場合等は対象外となります。

※文部科学省高等教育の修学支援新制度のホームページ

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/hutankeigen/index.htm

※日本学生支援機構奨学金ホームページ

<https://www.jasso.go.jp/shogakukin/index.html>

2. 現制度

2019年度までに入学した学生で、新制度に該当しない学生が対象となり、本学が授業料免除予算額の範囲内で免除者を決定し、全額免除又は半額免除を行います。現制度の免除基準につきましては、以下をご覧ください。

①経済的理由により、授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀であると認められる場合。

なお、令和2年度において原級に留め置かれている者、又は最短修業年限を超えて在学している者は、免除の対象とはなりません。（病気・留学など特別な事由があると認められる場合は除きます。）。

※学業優秀と判断する基準

学部第1学年及び編入学生の当該年度の取扱いは入学を以って学力基準を満たしているとする。

学部第2学年以上の学生については、進級を以って学力基準を満たしているとする。

※修業年限の取扱い

医学科 6年（第2年次編入学者は5年、ただし平成27年度以前の編入学者は4年6ヶ月）

看護学科 4年

修士課程 2年

博士課程 4年（長期履修を認められている者についてはそれぞれの修業年限）

②授業料納期前6か月以内において学生の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡した場合、又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、授業料の納付が困難であると認められる場合。

③独立行政法人日本学生支援機構の給付型奨学金制度の奨学金を受給している場合。

④②に準じる場合であって、学長が相当と認める事由がある場合。

◎授業料滞納者の授業料免除申請は受理しません。

II. 申請期間等

別途お知らせします。

III. 問い合わせ先

学生支援課学生総務係

TEL: 0166-68-2208

Mail: gaku-stu@asahikawa-med.ac.jp

令和2年度日本学生支援機構奨学生の募集について

日本学生支援機構は、優秀な学生でかつ経済的な理由により修学困難な者に学資の貸与を行っています。本学では、日本学生支援機構からの推薦依頼に基づき、出願者の種々の条件を考慮して選考を行い、日本学生支援機構へ推薦します。

4月に令和2年度の奨学生募集説明会を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を踏まえ、中止することになりましたので、各種募集の案内につきましては、改めて学内メール及び学生掲示板でお知らせします。

なお、募集の時期以外に家計の急変により、学資の支弁に困難な事情が生じた場合は、学生支援課学生総務係に相談してください。

ソーシャルメディアの適切な利用について



スマートフォンの普及に伴い、誰でも手軽に広く情報を発信することができる「ソーシャルメディア」（Twitter、Facebook、LINE、Instagram、Google+等）が広く社会に浸透し、今や学生生活には欠かせないツールとなりました。

しかし、仲間同士で楽しく活用できる反面、その影響力に対する認識不足から、発言内容が思わぬトラブルにつながる事例も発生しています。全国的にも、若者を中心とした不適切な発言や写真投稿によりSNSが炎上するというニュースが相次いでいます。

ソーシャルメディアには、読者を限定して情報を発信できるものもありますが、設定によっては、不特定多数の人が皆さんの発信した情報を見ることができます。一度発信した情報は、完全に削除することはできませんので、情報を発信する際には、常に公開範囲の設定がどうなっているかを確認してください。皆さんの何気ないちょっとした発言により、傷ついたり、不快に感じたりする人がいることを常に意識し、社会に大きな影響を与える場合があることを自覚してください。

また、ソーシャルメディアを利用する際には、法令を遵守することはもちろんのこと、本学の規則も遵守してください。大学や病院、臨床実習先で知り得た情報には、守秘義務が課せられていますので、このような情報を不用意に発信しないよう十分注意してください。本学学生として良識ある発言を心がけ、皆さんの行動や発言が、本学の信用に大きな影響を及ぼすことを自覚してください。

なお、ソーシャルメディアの不適切な利用が認められた際は、懲戒処分の対象とすることがあります。

ご存知ですか？大学内で国民年金の学生納付特例申請が可能です！

本学は国民年金法の規程に基づく学生納付特例事務法人の指定を受けているため、本学学生支援課の窓口でも、学生納付特例制度の申請手続きができます。

学生納付特例制度は、学生の皆さんが、申請により保険料の納付が猶予される制度です。この制度を利用することで、万一の事故などにより障害を負ったときの障害基礎年金の受給資格を確保することができます。

申請書類は学生支援課にありますので、申請を希望する方は、学生支援課学生総務係までお越しください。住民票を旭川市に移していない方でも、大学内で申請可能です。



学生納付特例制度とは？

所得の少ない学生の方が、国民年金保険料の納付を先送り（猶予）できる制度です。

* 病気やけがで障害が残ったときも障害基礎年金を受け取ることができます。

* 所得の目安は、 $118万円 + \text{扶養親族等の数} \times 38万円$ で計算した額以下である場合です。

学生納付特例期間の年金はどうなるの？

将来受け取る年金の受給資格期間には算入されますが、年金額には反映されません。

	老齢基礎年金		障害基礎年金（注） 遺族基礎年金
	受給資格期間への算入	年金額への反映	受給資格期間への算入
納 付	○	○	○
学生納付特例	○	×	○
未 納	×	×	×

（注）障害基礎年金および遺族基礎年金を受け取るには一定の要件があります。

申請時の注意点

○申請できる期間

* 過去期間は申請書が受理された月から2年1か月前（既に保険料が納付済の月を除く）まで、将来は年度末まで申請できます。

○申請に必要な書類

* 申請書

* 年金手帳（氏名記載ページ）のコピーと学生証

* 失業等の理由により申請を行う場合は、失業した事実が確認できる雇用保険受給者証又は雇用保険被保険者離職票等のコピー

※本学ではマイナンバーを使った学生納付特例申請は出来ません。マイナンバーを使用して申請したい場合には、お近くの年金事務所での申請をお願いいたします。

◎保健管理センターの開所時間

9:00~16:30 (土・日・祝日及び春季、夏季、冬季学生休業期間は閉所)

◎健康相談日 (定期健診が行われる日は閉所します。緊急時は対応します)

主な相談内容	相談医等		定期相談日	相談時間
内科・外科	第二外科 医師	安達 雄輝 上杉 優衣	毎週火曜日	月～金 昼休み
内科	第一内科 医師	中川 直樹	毎週月曜日	
	第二内科 医師	滝山 由美	毎週金曜日	
	第三内科 医師	久野木 健仁	毎週水曜日	
*精神神経科	精神神経科 医師	田村 義之	毎月2回 (金曜日)	
*整形外科	整形外科 医師	西田 恭博	毎月第1・3月曜日	
*皮膚科	皮膚科 医師	菅原 基史	毎月1回 (月曜日)	
*泌尿器科	泌尿器科 医師	玉木 岳	毎月1回 (火曜日)	
*眼科	眼科 医師	西川 典子 大野 晋治	毎月2回 (月・水・金)	
*耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科 医師	山木 英聖	毎月1回 (金曜日)	
*婦人科	産科婦人科 医師	横浜 祐子	毎月1回 (木曜日以外)	
*歯科	歯科口腔外科 歯科医師	佐藤 栄晃	毎月第1金曜日	
健康相談全般	保健管理センター長 川村 祐一郎		原則として毎週木曜日昼休み 緊急の場合にはそれ以外でも可	

(注) *印の付いている科の相談希望の場合は、前日までの予約が必要です。

(整形外科以外は相談日が未定のため、相談依頼により対応します)

定期相談日等は、都合により変更することがありますが、その都度お知らせします。



体温計は、ありますか？
健康管理のために、
用意しておきましょう！！

保健管理センター来所時には、保険証は
必要ありませんが、他医療機関を受診する場合には
必要となります。必ず用意しておきましょう



教 員 の 異 動

令和2年1月1日 採 用 先進医工学研究センター 教 授 武 輪 能 明
令和2年2月1日 採 用 教育研究推進センター 准教授 伊 藤 拓 哉

訃 報



本学名誉教授鮫島 夏樹氏(享年 95 才)におかれましては、令和元年 12 月 30 日(月)逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

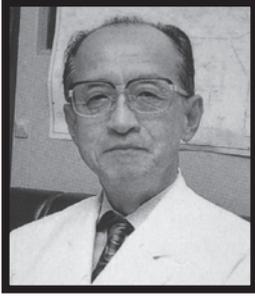
同氏は、昭和 48 年 9 月本学設置と同時に、外科学第一講座の初代教授に就任され、その後、同 60 年 7 月から同 62 年 6 月までの 2 年間及び同 62 年 8 月から平成 3 年 7 月までの 4 年間、医療担当の副学長及び附属病院長として大学の枢機に参画されました。

昭和 53 年には、第一外科長として全国に先駆けて小児外科系共通病棟の設置に尽力されたほか、医療担当の副学長及び附属病院長の要職にあつては、当時病理診断部門として全国の規範となった病理部を昭和 61 年に中央診療施設として正式に設置、さらに平成元年には輸血部を設置する等、本学の発展に多大な貢献をなされました。

また、同氏は平成 19 年から本学図書館において、江戸時代の稀少な医学書を中心とする蔵書の一般公開を始められ、平成 25 年には医学関係の貴重な和古書 1,300 冊以上、また博物学的価値を持つ外科器具等を寄贈されたことにより、本学図書館に「関場・鮫島文庫」が開設され、同文庫は現在も医学や地域、文化の発展に活用されております。

さらに、同氏は、昭和 53 年 9 月「小児外科に関する臨床的研究」により北海道医師会賞を受賞、平成 13 年 4 月には、勲三等瑞宝章を受章される等、その功績はまことに顕著でありました。

(総務課)



本学名誉教授東 匡伸氏(享年 87 才)におかれましては、令和 2 年 1 月 15 日(水)逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、昭和 48 年 9 月本学設置と同時に、細菌学講座(平成 12 年 4 月微生物学講座に改称)の初代教授に就任され、平成 3 年 8 月から同 7 年 7 月までの 4 年間、教育研究及び厚生補導担当の副学長として大学の管理運営に尽力されました。平成 5 年 6 月には本学初の寄附講座として臨床薬理学(ツムラ)講座を開設、同 6 年には看護学科設置に向けて準備委員会の設置に携われる等、大学の整備・拡充に大きく寄与され、その功績はまことに顕著でありました。

学術研究面においては、インターフェロンの産生と作用機序、生体のウイルス感染防御機構及びウイルスの増殖と抗ウイルス剤の作用機序の 3 本の研究分野を枝として、ウイルス学研究の向上に邁進されました。平成 11 年にはインフルエンザウイルスの RNA ポリメラーゼを標的とした新たな抗インフルエンザ製剤開発を目標として、インフルエンザの根本的治療薬開発に基礎的知見を集積したことで、内外から高く評価され、医学・医療の進歩に大きく寄与されました。

また、同氏は本学を退官された平成 12 年には北都保健福祉専門学校副校長に就任され、さらに同 13 年 4 月から同 18 年 12 月まで同校理事を務められる等、一貫して医療を支える人材育成に貢献されました。

(総務課)



本学名誉教授小野 一幸氏(行年 91 才)におかれましては、令和 2 年 2 月 4 日(火)逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、昭和 55 年 5 月本学医学部解剖学第一講座教授に就任され、平成 8 年 3 月定年により退職、同年 4 月本学名誉教授の称号を授与されました。

この間、永年にわたって、医学の研究と学生の教育・指導にご尽力され、本学の発展に多大な貢献をなされました。

学術研究面においては、組織学の分野において、細胞の吸収や分泌に焦点を当て、細胞の中でこれらの機能に不可欠なゴルジ装置やリソソームの構造を機能的な側面から明らかにしながら、さらに機能面の研究を推し進め、分泌の際のキーとなるカルシウムの動態を明らかにし、組織学の発展に貢献されました。

教育面では、肉眼解剖実習に必要な解剖体の収集、遺骨の返還、遺族を含む関係者との対応等に携われた他、本学独自の実習計画を立て、脳膜を観察しながら頭蓋腔から脳を学生自身に取り出すこと等を実施したことは高く評価されました。

また、本学退官後は北都保健福祉専門学校校長兼理事に就任され、同校に作業療法学科、精神社会福祉学科、社会福祉学科及び看護学科を次々に設置される等、一貫して医学の発展、地域社会の医療の向上に寄与された功績はまことに顕著でありました。

(総務課)